

はじめに

本年度は新漁場発見に重点を置き試験調査を実施した。

1. 遠洋漁場調査 → 遠洋鮪漁場調査、遠洋一本釣漁業試験
2. 近海漁場調査 → 近海一本釣漁業試験、鮪漁場調査
3. 沿岸資源調査 → 立廻釣、底延縄、曳網漁業試験

以上の各漁業調査別の試験結果を検討して見ると、1. 遠洋鮪漁業調査の第一次セレスフィールド区は漁獲率約10%、最高29.0%、海区平均4.53%から推量して好漁場であり、将来琉球漁船の操業推進することによって漁獲生産の増大することの出来る海区と認められた。調査状況及海区別漁獲率を参照し、第二次のフィリッピン東方及びミンダナオ東方の海区は当時漁獲率が普通以下で今後時期を覚えて調査の必要がある。

2. 遠洋鮪漁業調査、第一、二次ともマクレスフィールドバンクの調査を実施した。第一次は天候に妨がれられて予定の調査は出来なかつたので、第二次試験を実施した。其の結果マクレスフィールドバンクは沖繩から5日位で到着出来る漁場でその範囲も大きい、将来近海の本格的な操業の進展にもない舟艇式に操業すれば良い成績を揚げる漁場と認め、4月19日、赤尾尾放南方5哩の地点に新漁場を発見した。

鮪一本釣漁業試験は二回東支那海を調査実施したが漁獲が極めて少なく漁獲に至らなかつたが年々漁獲が多くなりつつあるように推量されたので再び鮪一本釣漁業の実現と見込に至るのである。

3. 沿岸漁業調査、曳網立廻りより魚種の遊泳深度と資源の種類を地区別に調査すると改良底延縄の試験であった、早に慶良間と伊平屋北部に一本釣の新漁場を発見した。其の他の漁場発見については下表の通りである。

新漁場発見表

発見年月日	漁場名	位置	魚種
1962年1.17	マクレスフィールドバンク	N15°-20' E114°-02'	ヒメダイ、カマサ、ハマイ、アヌ、アジ
" 2.24	尖閣列島魚釣島東方	N25°-43' E125°-45'	ハマダイ、ヒラマサ
" 5.5	赤尾	N25°-49' E124°-22'	"
" 6.18	伊平屋NE5哩	N27°-95' E128°-09'	ハマダイ、ヒラマサ、其他のノダイ

次に米国民政府招聘の漁業指導官土井久治氏の鮪延縄漁業試験及び海洋調査指導並びに漁村調査視察経過報告については別冊刊行する。